

# あらお非農地化推進、担い手農業者意見集約推進運動

農委会名：荒尾市農業委員会

## 1 地域の概要

荒尾市は、熊本県の最北端に位置し、東に小岱山を望み西に有明海が広がり、温暖な気候に恵まれ果樹栽培が盛んである。

小岱山の山間部にみかん栽培、なだらかに広がる丘陵地には梨の栽培が行われている。有明海に注ぎ込む関川、菜切川、浦川の河川沿いの上流部谷間に田畑が点在し、下流部に圃場整備をした水田地帯が広がる。

## 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 14人（うち、認定12人、女性2人）
- (2) 推進委員数 6人（うち、認定3人）
- (3) 事務局体制 4人（専任3人、兼任1人）

## 3 掲げた目標

### (1) 非農地化推進

管内全農地面積18,140,098㎡（19,172筆）に対し、全ての農地の利用状況調査及び非農地調査を実施し、非農地判断を行うもの。また、農振農用地内の農地についても農政部局側と打合せの上、非農地化を検討する。

### (2) 担い手農業者意見集約推進

平成29年度より農業委員等を含め、50歳未満の認定農業者を中心に約50人規模程度の農業者との意見交換会を開催したが、今年度も同規模の会を開催するもの。

## 4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

### (1) 非農地化推進

平成25年度より農業委員会において農地法上の「農地」に該当するか否かを仕分ける取組みを支援する用途転換促進事業を実施し、復元が不可能と見込まれる耕作放棄地について、農業以外の利用を志向する「非農地化」を促進する。

市内6地区の内、平成25年度に2地区実施、平成26年度に2地区、平成27年度に3地区、28年度からは毎年、全地区を実施した。

### (2) 担い手農家意見集約推進

平成29年から、農業委員を含め50人規模の認定農業者との意見交換会を実施したが、今年度も荒尾市内の担い手農業者（概ね50歳未満の認定農業者を中心に）に対して呼びかけを行った。

これからの農業に対する意見、政策的な要望等について積極的な発言が得られるよう、農業委員、農地利用最適化推進委員の他、荒尾市長、荒尾市産業建設部長、荒尾市議会の他、関係機関・団体等にも出席を呼びかけた。

## 5 取り組みの成果

### (1) 非農地化推進

管内全農地面積18,140,098㎡（19,172筆）に対し、全ての農地の

利用状況調査を実施した結果、A分類3, 225, 215㎡(3, 981筆)、B分類87, 157㎡(127筆)の判定を行い、B分類判定全てに非農地通知(所有者88名)を発送した。

なお、発送した所有者88名に対して、「非農地判断された農地について、地目変更まで希望する者には、農業委員会が一括して法務局へ地目変更申請を行う」旨を併せて通知したところ、所有者45名からの申出があり、その全ての申出について地目変更申請を法務局に提出した。



## (2) 担い手農家意見集約推進

令和元年11月16日(土)、荒尾市内にて「担い手農業者との意見交換会」を開催した。認定農業者11名、農業委員・推進委員11名、荒尾市長、市議会議員3名、国会・県議会議員4名、JA職員等1名の総勢49名が出席し、活発な意見交換がなされた。



## 6 課題と今後の方針等

### (1) 非農地化推進

毎年、着実に成果も出ている。元年度は、農振農用地区内の「非農地化」についても農業振興地域整備計画等の見直しに合わせ、農政サイドと協議した。現在も農用地区内の非農地化について検討を継続しており、今後も農政サイドとの厳密な打合せが必要である。

### (2) 担い手農家意見集約推進

出席した担い手農業者の大部分が昨年も参加した者がほとんどで、昨年より活発な意見が交わされた。その中で特に要望が多かったのは、農業に関する補助金等の情報をもっと知りたいとの内容であったため、今後、農政サイドとの連携を図り、ニーズに合った情報提供を構築する必要がある。